

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200507		
法人名	有限会社久里の里		
事業所名	グループホーム久里の郷		
所在地	唐津市久里1130-8		
自己評価作成日	令和3年8月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年9月24日	外部評価確定日	令和3年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自分がされて嫌なことは言わない、しない！をモットーとして、入居者本人の意向を最優先にして、余生をゆったりと過ごしてもらうためのお手伝いをさせて頂くことと、ご家族との関係をより強固にできるよう努める。スタッフにも共通認識を持たせ、共に過ごすことを大事にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成18年に開設された施設である。二つの川が交わる中洲にあり、周囲は田園風景の広がる住宅地域、車の通りは少なく静かで、また市街地にも近く生活しやすい環境である。施設の理念は開設当時から変わっていない。「自分がされて嫌なことは言わない、しない」は、職員に分かりやすく、また尊厳にも通じるものである。基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方ではなく、一人一人の体調に配慮しながら個別性のある支援が行われている。地域密着型施設として地域との繋がりも大切にしている。口腔ケアや紙おむつの使用方法などについても、専門家により指導を受け、成果を上げている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分がされて嫌なことは言わない・しない！をモットーとし、実践している。	「自分がされて嫌なことは言わない、しない。」難しい言葉よりも簡単に誰にでも伝わり実践に繋がれるようにという代表者の強い思いが込められている。この理念は開設当時から変わっていない。月1回の勉強会だけでなく、日々の生活の中でも振り返る時間を作り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域的にご近所とも近く家族的なお付き合いを心掛けている、ご近所からの季節物の差し入れも頻繁にある。	地域住民の一人としての暮らしがある。日常的に散歩や買い物などに出かけ、挨拶を交わしたり、世間話を楽しんでいる。回覧板や季節の農作物の差し入れなど、近隣に住む人たちとふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、地区の民生委員や地区住民の代表・行政関係の参加があり、活動報告をしている。	運営推進会議の構成メンバーは地域代表者、家族代表者、行政担当者、施設関係者などである。会議では事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、サービス向上に生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで説明している。	グループホーム連絡会には市職員の参加があり、介護保険の最新情報や各施設の悩みなどの相談の機会がある。思いが交差する時もあるが、それは話し合いで解決するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の後、身体拘束委員会のメンバーで各個室の確認などを実施している。	玄関の施錠はなく、入居者は自由に入出りできる。身体拘束も行っていない。スタッフ会議や勉強会で身体拘束について学習を行っている。身体拘束委員会には職員だけでなく、外部の第三者にも入ってもらい、意識せず行われている行為などにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議で研修を概ね、年2～3回している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議で研修を概ね、年2回している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせと説明をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	無記名の意見箱を設置している。	メールやSNSなどのツールを利用して、家族とのやり取りを行っている。また月1回の利用料の支払いのために来訪された時には、必ず話を行っている。サービス評価における家族の意見についても重く受け止め、全職員で話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で機会を設けている。	代表者は勉強会やミーティングの時だけでなく、日ごろからコミュニケーションを図るよう心掛けている。台所のエアコンの設置は職員の希望に沿って行われた。炊事作業がはかどるようになったという事例でも窺えるように、スタッフの要望などに対しての上席の対応は迅速である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回基本的にも実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に紹介している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内でグループホーム連絡会を2ヶ月に一度実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後はよい食事・よい排泄・よい睡眠の把握をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフ会議で一同必ず否定しないで、傾聴することを大事にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として対応している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	親子や舅・姑との仲に気を使っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が置かれていた環境や出自などを積極的に聞き取りしている。	コロナ禍の中でも感染対策をきちんとした上でお盆や彼岸のお寺参りを行った。本人の希望で実家や買い物にも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの様子に注意を払っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	無くなった後でも家族との連絡などを取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を最優先している。ホームのスケジュールに合わせないようにしている。	本人や家族、入居前の関係者から話を聞き、意向の把握を行っている。入居後は日々の関わりの中で、声をかけ、把握に努めている。言葉や表情などから真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人を主体としてスタッフが対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の要望を最優先にしている。	本人や家族には日ごろの関わりの中で、思いや意見を聞き、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	サービス担当者会議の中に 本人や家族の参加はなく、スタッフ中心の会議となっている。同じテーブルに座することで利用者主体の暮らしを反映した介護計画ができるのではないのでしょうか。新鮮な目での取り組みを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のバイタルや口腔ケアの記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに固守することなく都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の体調に応じて買い物やドライブを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と訪問歯科・個別の病院受診に対応している。基本、家族には同行などの迷惑はかけないようにしている。	入居時にかかりつけ医の継続、協力医への変更などについて、本人や家族と相談している。訪問診療の他、専門医への受診は日ごろの状態把握ができていない代表者が付き添っている。訪問歯科は歯科衛生士による口腔ケアを受け、全員自分で食べることができている。肺炎などの発症も抑えることができている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による健康チェックを実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的にホームでの生活リハビリを勧めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時と大きな体調変化がある度に終末期や看取りについて話をしている。	事業所全体で積極的に取り組んでいる課題である。毎年数例の実績があり、利用者が亡くなった後の家族への支援も継続的に行われてきた。協力医のほか同事業所が持つ、看護小規模多機能の施設の看護師の協力により看取りに不慣れな職員も不安なく対応できている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	都度スタッフ会議などを利用し、研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	都度スタッフ会議などを利用し、研修を実施している。	避難訓練は年2回実施している。1回は夜間想定での訓練である。消防署へは訓練計画書を提出し、指導助言を受け、必要があれば改善につなげている。スプリンクラー、自家発電機の設備を整えている。非常食も水、米、味噌など2、3日分備えている。護岸工事で堤防が高くなり、洪水の対策がとられている。ハンドスピーカーを準備し、近隣者の協力を得て初期消火と避難対応に繋がりたいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尽きることのない、特に女性の尊厳に最大限注意を払うように指導している。	入浴は同性介助を基本としている。接遇についても機会があれば職員複数での研修を実践している。職員が互いに注意し合える関係ができています。やわらかい対応と声掛けを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを大事に、爪の手入れや髭剃りなどに気を遣うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	少しでも出来る事はお手伝いして頂いている。	食材の購入は職員が毎日出かけ、旬の新鮮な食材を調達している。後片付けは一緒に行っている。彼岸には「おはぎ」、名物店のものを調達することもある。刺身は利用者の好物、新鮮なものを管理者自ら選び食卓に出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主婦感覚で対応し、本人の好みを優先している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のたびにケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ自力排泄できるように介助している。	トイレでの排泄を大切にしている。職員研修で紙おむつの業者(排泄管理の専門家)の研修を過去2回実施し、紙おむつの当て方などを学んだ。その後紙おむつの使用量は激減している。また便秘予防についてもサツマイモが効果があることに気づき積極的に食材として活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬は同包しないように体調に合わせてスタッフが調整している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間に縛られないで本人の意向に合わせている。	基本は週2～3回の入浴。毎日お風呂は沸かしているため、無理強いせず入浴したい日、時間に合わせて対応している。清拭となる時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間に縛られないで本人の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースを制作し、誤薬や飲み忘れに対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のやりたいことは拒否しないようスタッフが合わせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由にさせていただいている。	自由に戸外に出かけることができる。遠目の見守りは職員だけでなく、地域の協力もある。敷地内の畑での作業が日課となっている利用者も居られる。日常の会話から「夫に会いたい」の気持ちを汲み、一緒に出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時間は問わず家族からの電話は対応し、つないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと過ごしていただいている。	リビングの奥には台所があり、調理する音や匂いが広がっている。リビングに面したテラスには開設当初からの犬がのんびりと横になっている。その横では利用者が二人、話しながら洗濯物を干されている。遠目で職員が見守りを行い、自宅の延長としての生活がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みを推奨している。	テレビや仏壇、写真など思い出の品が持ち込まれ、それぞれの利用者が心地よく過ごせるよう配慮されている。仏壇の水や花の世話は職員が一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの表示や個室の入り口に、名札を付けている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない